科目ナンバリング	U-LAS05 20005 LJ40						
授業科目名<英訳>	民俗学II Folklore Studies II			担当者所属職名・氏名	人文科学研究所 助教　　菊地　暁		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

民俗学とは、人間の「せつなさ」と「しょうもなさ」に寄り添う学問ではないかと思う。普通の人々が日々の暮らしのなかから創り上げ、承け伝えてきたコトバ、モノ、ワザといった営みの総体、そしてその結果として存在する「私たち自身」を「民俗資料」と名付け、そこから、文字資料には決して書き残されることのなかった普通の人々の歴史を探ることを試みる学問である。本講義は、民俗学の目的と方法を学史的に概略した上で、人生儀礼、信仰行事、口頭伝承、等々の個別分野を論じる予定である。

[到達目標]

民俗学の基本的な考え方を理解し、聞き書きなどの初歩的な実践方法を習得することを目指す。

[授業計画と内容]

１．使用上の注意
２．民俗学の歴史
３．民俗学の方法
４．そだつ―人生儀礼―
５．めとる―婚姻―
６．とむらう―葬送―
７．期末レポート作成の注意１
８．いのる―信仰―
９．まつる―年中行事―
１０．おどる―民俗芸能―
１１．期末レポート作成の注意２
１２．つたえる―口頭伝承１―
１３．なづける―口頭伝承２―
１４．ものがたる―口頭伝承３―
１５．まとめ（フィードバック）

[履修要件]

衣食住、経済生活、社会組織を扱う「民俗学Ⅰ」は前期に開講する。

[成績評価の方法・観点]

授業中に課すミニ・レポート（40点）および「聞き書き」を課題とする期末レポート（60点）によって評価する。詳細は講義中に指示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
菊地暁『民俗学入門』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431910-8
菊地暁［編］『書いてみた生活史：学生とつくる民俗学』（実生社）ISBN:978-4-910686-13-4

民俗学II(2)へ続く↓↓↓

民俗学II(2)

大谷栄一・菊地暁・永岡崇［編］『日本宗教史のキーワード―近代主義を超えて―』（慶應義塾大学出版会）ISBN:978-4-7664-2535-2
菊地暁 『柳田国男と民俗学の近代－奥能登のアエノコトの二十世紀－』（岩波書店）ISBN:9784006004859
授業中に随時紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

・履修前には、十数年分の「人生経験」があればよい。
・授業後に、講義内容に関連して各自の生活体験を報告する「ミニ・レポート」が課される。「簡単に済ませようと思う」なら10分とかからず作成可能である。
・期末レポートでは初歩的な「聞き書き」が課される。これも「簡単に済ませようと思う」なら１時間程度の調査と半日程度の文章作成で可能である。
・もちろん、「簡単に済ませようと思わない」ならこの限りではない。そして学問とは、むしろそのような営みであるはずだ。

[その他（オフィスアワー等）]

知的好奇心の旺盛な受講生を歓迎する。また、民俗学に限ったことではないが、学問を学ぶ以上、「事実と論理」の前にひざまづく覚悟が肝要である。

[主要授業科目（学部・学科名）]